平成26年度 第十八回 外国人留学生 奨学金受賞者紹介

熊本大学大学院医学教育部
博士課程一年（中国）
趙　加斌

この度は肥後医育振興会奨学金奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。その栄誉に感激すると共に、身の引き締まる思いです。

私は中国から、医学の研究するために、熊本大学大学院医学教育部に入学しました。私の研究テーマはAngptl2が骨格筋に対する影響です。Angptl2は血管の生成や機体代謝などについて色々な機能があり、肥満や糖尿病などに関して深い影響がある蛋白質です。骨格筋は運動機能だけではなく、様々なサイトカインを分泌するので、内分泌機能も持っています。しかし、Angptl2は骨格筋に対してどのように代謝や分泌することを影響しますかまだ良く分かりませんですが、私はその機能を検討しております。

今回の奨学金のおかげで、時間的な余裕を手にすることが出来、安心して勉学研究に集中することができるようになり、喜びの気持ちでいっぱいです。

そして、卒後は熊本大学で学んだことを生かして、中国と日本の架け橋となり、研究だけでなく医療の発展に尽力できるように頑張ります。また、皆様方のご期待を裏切ることのないよう、在学中は一生懸命学習・研究にはげみたいと思います。

最後にもう一度、私を肥後医育振興会奨学金採用者に選んでいただきましてありがとうございました。

熊本大学大学院医学教育部
修士課程二年（中国）
王　馳

王馳と申します。中国から参りました。熊本大学医学教育部の知覚生理分野で勉強しています。今、修士二年生です。去年、貴方財団の奨学金をもらいました、誠にありがとうございます。この奨学金をもらったら、自身と親の負担を大変減りました。もっと精一杯で勉強と研究していきます。

日本に来る時、日本語全然できません。学校で完全に英語で話します。でも、買い物する時、市役所に行くとき、銀行に行くとき、日本語できないからとても不便です。その時からちゃんと日本語を勉強したい。お金がたりない、教科書も高い、買いたいけど難しい。困る時、貴財団の奨学金をもらった。いろいろな日本語の教科書を買いました。日本語の文法、語彙、読解、漢字についての本たくさん買いました。本当に助かりました。実験の以外の時、日本語を独学します。難しいけど楽しいです。今年の七月、日本語能力試験N2を受けてみたい、頑張ります。

私の故郷は中国の内蒙古です。経済発展が遅いので医療技術も遅い。自分がもっと優秀な医者になりたいから日本に来ました。日本の医療技術や医学研究は世界で最も先進的です。私は医学生として日本で研究を続けて行きたいと考えています。将来、医学の発展に貢献するために、まず、多くの医学知識をちゃんと身に付けることは一番大事なことだと考えている。また、留学は技術などの習うだけではなくて、同時に日中友好のために日本の文化や日本人のマナーなども学ぶ必要があると思います。日本と中国の間で、架け橋のよう存在になって、将来、日本で学んだことを社会に役立ちたいと考えています。

今年の四月から博士課程に入りました。四年間の博士課程内に全力頑張って実用性が高い研究成果を出し、医学の発展に力を献げたいと思っている。卒業後、医学研究を続けて、未解明な医学領域の開拓に努力して行きたいです。

熊本大学大学院医学教育部
博士課程二年（中国）
黄　冠男

私は熊本大学医学教育部、博士三年、黄冠男と申します。私は神経内科疾患の新規治療法の開発研究に興味があります。そこで、研究環境の充実した日本で、難病であるアミロイドーシスの研究を中心に先進的な活動を行っている本研究室へ、私の望む将来の医療への貢献に繋がる研究をする為に留学を決意しました。

現在の研究室に所属して三年が経ちますが、家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）の新規治療法の開発、特に本疾患の重要な症状となる心臓におけるアミロイド沈着機構を研究、研究に必要な多くの最新論文に可能な限り目を通したいと思っています。現在、実験手技、手法を修得するとともに、臨床現場の見学を通じて日本の高度な医療についても学んでいます。

将来、私は中国に帰り医師に戻ります。日本で勉強した知識を活用した医療活動を行い、患者の健康のために一生懸命頑張りたいと考えています。アミロイドーシスの研究は、難病の臨床治療としての他の様々な治療法と組み合わせることで、更に有効な治療が期待できます。また、今回の留学で広く深く日本の研究者と交流し、この経験を将来、中国と日本との間で進めることを目指します。

熊本大学大学院医学教育部
研究生（中国）
朱　順順

この度は、肥後医育振興会医学研究助成金をいただき、誠にありがとうございました。関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

私は中国からの私費留学生朱順順と申します。現在は、分子遺伝学分野の尾池教授の指導下で、SGLT2阻害薬による代謝改善機構について研究を行っております。SGLT2阻害薬は、尿糖排泄を促進することにより抗糖尿病効果を発揮する新規の糖尿病治療薬である。SGLT2阻害薬の投与により尿糖排泄亢進による血糖低下以外にも、エネルギー・糖・脂質代謝の改善作用が示唆され、メタボリックシンドロームなどの治療に応用を検討しております。

今後視野を広げるため、様々な学会を参加し、その知識を医療への応用、医学発展のために、自分の力を尽くしたいと思います。また、私を育ってくれた家族、お世話になった方々に少しでも恩返しができるように、そして医学の発展のためにも、勉学に励み、努力して参ります。

最後に、多くの方々にご支援を頂いたことを心から感謝しております。どうもありがとうございました。